

Activity Report



教育データ 利活用例

表現を振り返り、自分らしさを育む 図工でのICT活用

学校法人佐藤栄学園さとえ学園小学校では、子どもたちの主体性を大切に一人ひとりの個性や能力を伸ばす教育を日々実践しています。ICT機器やデジタル教材も積極的に活用しており、各教科においてさまざまな実践が広がっています。今回は、図工における单元ごとの振り返りをデータで蓄積[※]し、子どもたちの学びへとつなげる取り組みについて、同校の教壇に立って23年の津田桂先生にお話を伺いました。

※教育クラウドサービス(educube)のデジタルワークシートアプリ(Travi(以下トラビ))を使用しています。
(トラビ)の詳細はスズキ教育ソフトHPをご覧ください。
<https://www.suzukisoft.co.jp/products/educube/travi/>



埼玉県さいたま市
学校法人佐藤栄学園
さとえ学園小学校 教務次長
津田 桂 先生

自分を客観視する振り返り

— 図工での〈トラビ〉活用には、どのようなきっかけがあったのでしょうか？

図工の作品づくりは「作って終わり」「見せ合って終わり」になりがちで、これまで私の授業でも、子どもが自分の表現を深く振り返る機会は多くありませんでした。しかし図工は、自分の考えや思い、行動が形になって表れる教科です。それを少し引いた視点で見直すことは、いわゆるメタ認知的な視点を育むうえでも大切なのではないかと考えるようになりました。また、配付や回収が必要な紙での振り返りに比べて、デジタルでの振り返りには手軽さや瞬発力がありますので、習慣的に授業に取り入れるのによいかなと考え〈トラビ〉を使い始めました。

— そのような取り組みは、全学年で行われたのでしょうか？

はい。各学年の実態に応じて、デジタルワークシートを作成し、配付しています。はじめはログインに手間取ったり、端末操作に苦勞したりすることもあります。ですが本校では1年生から端末を持ち、

個人のスキルに応じて指導していますので、2年生になる頃には多くの子どもたちがスムーズに操作できるようになっています。

— 図工での振り返りは、言語化するのが難しいイメージがあります。ICTスキルとともに、言語能力的なところも指導されているのでしょうか？

あくまで図工なので、国語のように言葉の指導をするわけではありません。例えば1年生など、まだ言葉での表現が難しい場合は、ワークシートの回答を選択式にすることもあります。あとは、〈トラビ〉のシートの設定として、学年や発達段階に応じた入力文字数を決めています。4年生は25字、6年生は80字など、ある程度の文字を書かないといけない状況をつくり、思考を深めるきっかけにしています。

— 作品の振り返りということは、写真も活用されているのでしょうか？

はい。写真も含めて残すようにしています。写真を撮り、文字に残すことで自分の思いを客観的に認識できると思います。例えば、「もっと時間が欲しかった」

「計画的にやればよかった」など制作過程への気づきが出てくることもありますし、「赤色を強く表現しすぎた」など自分の思いと表現のギャップを感じている場合もあります。また、「下書きに時間をかけすぎて色塗りが雑になってしまった」といった具体的な記述があると、次の单元での指導につなげる手がかりにもなります。

	1まい目	2まい目
回答日時	2025/07/10(木) 13:45	2025/07/10(金) 13:28
回答時間	00:01:28	00:02:44
1. 画材名	青と色や形を書き。	ぐるぐるクランク
2. 作品の題名	三輪車	水筒の魚たち
3. 作品の写真(1)		
4. 作品の写真(2)	-	-
5. 作品の写真(3)	-	-
6. 作品の良かった所やうまくいった所	音が響いているということ を表現出来たと思う所。	魚や水筒、ボールをいろんな色を使って作れたこと。 海の部分をちぎってつけてみたところうまくいったこと。
7. こうすれば良かった、家はこうしたいなどのふりかえり	もう少し時間に余裕を持ったり、絵が書けるようにしたいです。	魚に使う粘土をもう少し増やして塗りを楽しみたいところ。
8. ルーブリック	A	A

● 児童の画面に表示される自分の振り返りの一覧

表現活動と評価の関係

— こうした振り返りを評価にも活用されているのでしょうか？



もちろん、子どもたちを見取る材料にはします。ですがフィードバックという点では、子どもたちの出したものに対して私が良し悪しをジャッジすることはしないようにしています。

あくまで学校の中での図工や美術は、上手にやることを目的にはしていません。表すことや作ることを楽しんだり、自分自身を見つめたりする機会にしてほしいですし、教える側がその目的を忘れてはいけないと思います。本当は、「評価」をしたくないとすら思っています(笑)。自分の内側から表出するものだから、「あなたの作品はダメ」なんて言われたら、とっても傷つきますよね。だからまずは図工を嫌いにならず、怖がらず表現できるようになってほしいという想いで、子どもたちに接しています。

情報活用と自分らしさ

— 子どもに「本物らしく描きたい」という思いがあるときはどうされていますか？

子どもたちは日常的にタブレットを情報手段として使っています。例えば、タブレットで検索した画像を見本にして、模写することもあります。そうしたときに、参考画像を横に置きっぱなしにせず、閲覧時間を制限するなどの工夫をしています。これは、情報に頼りすぎず、自分なりの解釈の余地を持てるようにするための補助だと思っています。また、大人であれば「どこからが自分の考えや思いで、どこからが他者のものか」を意識的に区別できますが、子どもは曖昧になりがちです。そういった意味でも、写真や資料にのめり込みすぎないように調整できればと考えています。美術はもともと「模倣」から始まっている側面もあり、真似をすること自体が悪いわけではありません。そこから自分なりの表現につなげていくことが大切です。

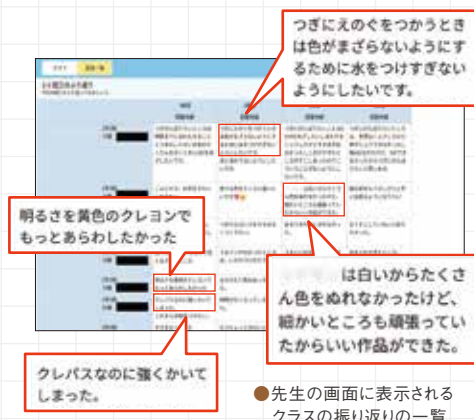
— 情報活用によって図工も変わってきていますか？

絵がうくなりましたね(笑)。これまでイメージで描いていたものが、補助となる情報を取り入れながら描けるので、非常に大人っぽい印象になりました。その反面、写実要素が多くなると、表現というより作業になってしまうことがあります。今の時代の子どもたちは、情報があふれる中で表現をしていかないとはいけません。そのバランスは教える側としても悩ましいところです。

学びの積み重ね、プロセスを大切に

— 〈トラビ〉での振り返りは、児童の自己調整やメタ認知の力につながっていると思われますか？

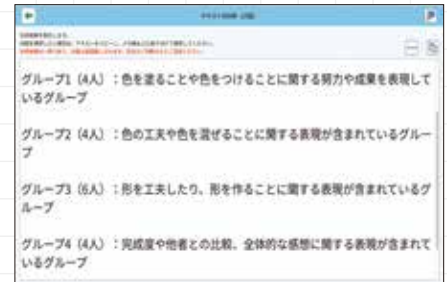
少しずつそのような感覚を持ち始めている子どももいます。過去の記録が蓄積されることで、自分の変化に自然と気付けるようになっているはずですよ。とはいえ、メタ認知の感覚を小学校段階から掴むのはなかなか難しいことです。大人になるにつれて体験的に分かるようになるものではないでしょうか。まずは授業の中で自分の活動を振り返る体験が、その芽になることを期待しています。そして図工は特に、自分の内面が強く表れる教科で、「自分ってこういう人なんだ」と気付いていく過程こそが大切な学びの1つだと思っています。



●先生の画面に表示されるクラスの振り返りの一覧

— 子どもたちの学びを捉えるという点では、〈トラビ〉の「テキストAI分析」も使われていますよね。

はい。現在は、クラス全体に対する分析結果を私が確認し、子どもたちを見取る参考にしています。



●「テキストAI分析」でグルーピングした結果

今後、個々の児童が継続的に記録した内容に対して、その変容を分析できるようにになれば、子どもたちへのフィードバックとして活用できるかもしれません。生成AIには好き嫌いがありませんから、子どもたちもその結果をフラットに受け止めやすいと思います。うまく活用できれば、自信や改善につながっていくのではないのでしょうか。

— 最後に、図工の振り返りを通して、大切にしたい子どもの姿はどのようなものですか？

私は、子どもたちは自分よりも才能があると思いながら接しています。ですから、教えるのは技法であって表現ではありません。私にさまざまな助けやお手本を求めてきますが、できる限り手を出さないように気を付けています。自分がどう感じるか、どう選ぶかを積み重ねる中で、まずは自分で自分を評価できるようになってほしいです。他者からの評価は、もう少し後になってからでよいと思っています。今後も、振り返りを言葉や写真で残すという取り組みが、自分を知り、向き合うための一助となれればと思っています。